

## PF 研究会「極短周期アンジュレータと新しい高性能光源加速器の開発」開催のご案内

放射光科学第一研究系 山本 樹

前号の PF ニュースにてご案内しましたが、PF 研究会「極短周期アンジュレータと新しい高性能光源加速器の開発」を下記の要領で開催することとなりました（前号でご案内したタイトルから一部変更）。

当研究会では、極短周期アンジュレータを用いた光源の実現可能性について検討を行いたいと考えます。このアンジュレータの優れた特性にも拘らず、動作する磁石ギャップが非常に狭いことから、通常的光源加速器に単純に応用することには幾つかの困難が予想されます。現在国内で最高のビーム性能を実現している SPring-8 を初めとして、さらに高いビーム性能を目指して計画立案中の ERL 光源加速器、東北光源計画加速器、SPring-8II 等を対象に、極短周期アンジュレータ光源を実現するための要件を模索したいと思えます。最終的には極短周期アンジュレータに特化した光源加速器の設計に結びつけたいと考えています。皆様のご参加をお待ちしています。

**日時：**9月18日（水）、19日（木）

**場所：**高エネルギー加速器研究機構つくばキャンパス・研究本館小林ホール

**申込方法：**研究会ホームページ (<http://pfwww.kek.jp/pf-seminar/VSPU/>) の参加申込フォームをご利用下さい。

**懇親会：**9月18日（水）の夜に予定しています。

**問い合わせ先：**shigeru.yamamoto@kek.jp（山本 樹）

**講演者（予定）：**

1. 山本 樹（KEK）：極短周期アンジュレータの開発と今後展望
2. 足立伸一（KEK）：極短周期アンジュレータ光源による利用研究 1
3. 足立純一（KEK）：極短周期アンジュレータ光源による利用研究 2
4. 高雄 勝（JASRI）：アンジュレータ極狭ギャップのビームダイナミクスへの影響
5. 早乙女光一（JASRI）：1 回対称リングの安定性
6. 大熊春夫（JASRI）：SPring-8 加速器診断 BL での極短周期アンジュレータの性能試験
7. 濱 広幸（東北大）：東北光源計画の現状と加速器設計の詳細（仮題）
8. 中村典雄（KEK）：ERL 将来光源計画と cERL 周回部建設の進捗状況
9. 宮島 司（KEK）：cERL 入射部立ち上げと電子銃および空洞開発の現状

10. 田中 隆次（RIKEN SPring-8 Center (RSC)）：挿入光源の次世代化に向けた新しいコンセプト
  11. 原 徹（RIKEN SPring-8 Center (RSC) / JASRI）：SACLA 線形加速器の性能と課題
  12. 神門 正城（JAEA 関西研）：レーザー電子加速の現状と小型放射光源への応用の可能性について
  13. 加藤 政博（分子研）：小型放射光リングにおける極短周期アンジュレータ
  14. 栗木 雅夫（広島大）：題名未定
- ※ 9月18日14時～、19日は15時30分までを予定しています。プログラムは決まり次第、研究会ホームページに掲載いたします。

## 物構研サイエンスフェスタ開催のお知らせ

物構研サイエンスフェスタ実行委員長 阿部 仁  
下村浩一郎

第31回 PF シンポジウムは、今年度も中性子、ミュオンと合同の第2回物構研サイエンスフェスタの中で開催します。

開催日時は2014年3月18日（火）～19日（水）の2日間、会場はつくば国際会議場（エポカルつくば）を予定しています。このシンポジウムは、施設側スタッフ、ユーザーの皆様が一堂に会することができる機会ですので、是非ご参加下さいようお願い申し上げます。

また、例年通り前日の3月17日（月）の夕方にユーザーグループミーティングを開催できるように、会議室を確保する予定です。実行委員会を組織し、プログラム等の検討を進めて参ります。詳細が決まり次第ホームページや PF ニュース等で皆様にお知らせ致します。第1回物構研サイエンスフェスタを振り返り、ご意見ご感想等ございましたらお知らせ下さい。

## 平成26年度前期 フォトン・ファクトリー研究会の募集

放射光科学研究施設長 村上 洋一

物質構造科学研究所放射光科学研究施設（フォトン・ファクトリー）では放射光科学の研究推進のため、研究会の提案を全国の研究者から公募しています。この研究会は放射光科学及びその関連分野の研究の中から、重要な特定のテーマについて1～2日間、高エネルギー加速器研究機構

のキャンパスで集中的に討議するものです。年間6件程度の研究会の開催を予定しております。

つきましては研究会を下記のとおり募集致しますのでご応募下さいますようお願いいたします。

#### 記

1. 開催期間 平成26年4月～平成26年9月
2. 応募締切日 平成25年12月20日(金)  
〔年2回(前期と後期)募集しています〕
3. 応募書類記載事項 (A4判, 様式任意)
  - (1) 研究会題名(英訳を添える)
  - (2) 提案内容(400字程度の説明)
  - (3) 提案代表者氏名, 所属及び職名(所内, 所外を問わない)
  - (4) 世話人氏名(所内の者に限る)
  - (5) 開催を希望する時期
  - (6) 参加予定者数及び参加が予定されている主な研究者の氏名, 所属及び職名
4. 応募書類送付先 (データをメールに添付して送付)  
放射光科学研究施設 主幹秘書室 石川 銀  
Email: gin.ishikawa@kek.jp TEL: 029-864-5196  
なお, 旅費, 宿泊費等については実施前に詳細な打ち合わせのうえ, 支給が可能な範囲で準備します(1件当り上限50万円程度)。開催日程については, 採択後にPAC委員長と相談して下さい。また, 研究会の報告書をKEK Proceedingsとして出版していただきます。

## 一般公開のお知らせ

一般公開実行委員会  
放射光科学第二研究系 野澤俊介, 仁谷浩明

今年のKEK一般公開は、『宇宙・物質・生命』というテーマで9月8日(日)に開催されます。高エネ機構にある, 多くの施設が公開されます。同じ敷地にありながらこれまで足を踏み入れたことない施設を, 見学されてみてはいかがでしょうか。PFではビームラインの展示や研究内容の紹介と共に, 物構研展示コーナーも設けられ, 中性子, ミュオンを使用したJ-PARCでの研究内容や, 低速陽電子施設での研究内容についての展示も行います。また, PF次世代光源のための研究開発の紹介として, 今年度からERL開発棟においてコンパクトERLの展示も行います。研究本館小林ホールで行われる特別講演では, 「チョコレートの物理学-おいしさをつくる技術-」と題しまして, 広島大の上野聡教授に講演を行って頂く予定であり, 放射光分析を用いた食品物理学に関して詳しく紹介して頂きます。また, 4号館セミナーホールで行われる講演において, 放射光関連ではKEK構造生物学研究センター長の千田俊哉教授に「遺伝子ってなんだろう?」, と題した講演を行って頂く予定となっております。当日は, KEK内の各施設

において, 加速器, 実験機器, 研究成果の工夫をこらした展示や, 科学おもちゃの実演などが行われる予定です。小さいお子さんからお年寄りの方まで楽しめるような企画が盛りだくさんですので, 放射光ユーザーの皆様も, 普段とは異なるKEKを楽しんでいただけたらと思います。ご家族, ご友人お誘い合わせのうえ, KEK一般公開にお越しいただきますよう職員一同心よりお待ちしております。つくばセンター(つくばエクスプレス「つくば駅」下車すぐ)とKEKの間は当日無料送迎バスが運行されます。また, 機構内の移動には無料巡回バスが運行されます。KEK一般公開に関する詳細は, <http://openhouse.kek.jp/> をご参照ください。

1. 日時: 2013年9月8日(日) 9:00～16:30

#### 2. 公開施設等:

フォトンファクトリーリング, ERL開発棟, 電子陽電子線形加速器, Bファクトリー加速器, Bファクトリー筑波実験棟・展示室, 先端加速器試験棟, 超伝導リニアック試験施設棟, 先端計測実験棟, コッククロフト・ウォルトン型高電圧加速器, 放射線科学センター, 計算科学センター, 機械工学センター, 超伝導低温工学センター, 常設展示ホール「KEKコミュニケーションプラザ」

#### 3. 展示等:

国際共同実験(CERN-LHC ATLAS実験など), 大強度陽子加速器施設J-PARC(T2Kニュートリノ振動実験, ハドロン実験など), 素粒子理論研究, 史料室展示など

#### 4. 特別講演(研究本館小林ホール):

##### ■特別講演:

- ◇ 10:00～11:00 「宇宙の始まりに素粒子に迫る」  
講演者: 村山 斉(カブリ数物連携宇宙研究機構機構長)
- ◇ 14:00～15:00 「チョコレートの物理学-おいしさをつくる技術-」  
講演者: 上野 聡(広島大学大学院生物圏科学研究科教授)

##### ■講演:

- ◇ 11:00～11:45 「宇宙を探る先端技術・超伝導」  
講演者: 山本 明(KEK先端加速器推進部教授)
- ◇ 13:00～13:45 「遺伝子ってなんだろう?」  
講演者: 千田 俊哉(KEK物質構造科学研究所教授)
- ◇ 15:00～15:45 「素粒子を見逃さない超高感度な眼(センサー): その最前線と意外な応用」  
講演者: 幅 淳二(KEK素粒子原子核研究所教授)

#### 5. その他の主な企画:

- おもしろ物理教室「サイエンスショー」
- ラジオの制作
- 科学おもちゃ+声はどれほど遠くまで届くか
- 霧箱教室
- 理論クイズ

## 防災・防火訓練のお知らせ

放射光科学第二系 防火・防災担当 丹羽尉博・山田悠介

高エネルギー加速器研究機構では全機構での防災・防火訓練を年1回行っています。本年度の訓練は、**2013年11月1日(金)午後**に行う予定です。

訓練では、緊急地震速報が発令された場合の対処、地震発生後の機構指定避難場所（PF ニュース裏表紙参照）への避難・誘導、避難場所での職員・ユーザーの安否確認などを行います。訓練は30分間程度の予定で、避難の際、MBSを閉じるようになりますので、PF、PF-ARとも一時的に実験ができなくなります。

東日本大震災が発生した日は、その日の朝に運転が終了し、実験ホールにはユーザーの方はあまりいらっしゃいませんでしたが、これまで毎年ユーザーの皆様にもご協力いただき訓練を行っていたこともあり、ユーザー・職員は訓練どおりに避難し、安否確認なども迅速に行うことができました。実験装置の転倒・落下などの被害はあったものの、幸いにして人的被害が全くなかったことは、日ごろのユーザーの皆様のご協力による防災意識と、毎年の防災・防火訓練に起因していると確信しております。

PFでは、多くのユーザーが閉じられた空間で実験を行っており、放射線や化学薬品、高圧ガスなども扱っていますので、非常時には迅速な対応が取れるよう、日頃の訓練が極めて重要と考えています。大切な実験時間の一部を使っている訓練となりますが、一人でも多くの方に参加していただけますよう、ご協力をよろしくお願いいたします。

## 平成26年度前期共同利用実験課題公募について

高エネルギー加速器研究機構物質構造科学研究所の放射光科学研究施設（フォトン・ファクトリー）は、電子蓄積リングから放出される放射光を用いて研究を行うための全国共同利用研究施設です。下記の要領で共同利用実験課題を公募します。なお、低速陽電子実験施設の共同利用実験課題を併せて公募します。課題審査等は放射光共同利用に準じて行われます。

今回の公募は10月上旬から受付開始し、締切は11月中旬を予定しております。申請は専用Webページ（<https://pmsweb.kek.jp/k-pas>）にアクセスして、必要事項を入力して下さい。これまでPFを利用されていない方は新規にユーザー登録が必要になりますので、余裕を持って申請ください。締切時間はWebシステムで設定されており、少しでも締切時間をすぎますと受け付けられなくなりますので十分ご注意ください。2月に審査結果の速報が電子メールで送られる予定です。採択された課題は平成26年4月に有効となり、実験が開始できます。

### 【概要】

応募資格者は国立、公立及び私立大学、国立、公立研究所等の研究機関の研究者、又はこれらに準ずる研究者に加えて、科学研究費補助金の申請資格を有する機関に所属する研究者が研究成果を無償で社会に還元することを主目的とする研究等も含まれます。軍事目的の研究はできません。

所定の手続きに従って共同利用実験申請書を提出し、課題審査委員会で採択された場合は無償で実験を行うことが出来ます。**原則として評点の高い課題から順にチームタイムが配分されます。**実験参加者（研究者および大学院生）は規程に従い、図書室の利用等の便宜供与を受けるとともに、機構内の宿泊施設を利用し、旅費、宿泊費等の支給を受けることができます。

利用できるビームライン・実験装置については「フォトンファクトリーの実験ステーション・実験装置」([http://pfwww.kek.jp/users\\_info/station\\_spec/index.html](http://pfwww.kek.jp/users_info/station_spec/index.html))を参照下さい。

### 【研究成果の公表】

実験の結果は公表（学術論文、学位論文、Activity Report、学会口頭発表等）していただきます。論文には使用した施設名、ビームライン名を明記して下さい。謝辞には以下の様に課題番号を記載して下さい：This work has been performed under the approval of the Photon Factory Program Advisory Committee (Proposal No. 2006G123)。

放射光共同利用実験結果が少しでも含まれる学術論文、学位論文などを発表された場合にすみやかにPF出版データベース（[http://pfwww.kek.jp/users\\_info/users\\_guide/pubdb.html](http://pfwww.kek.jp/users_info/users_guide/pubdb.html)）、学位論文データベース（[http://pfwww.kek.jp/users\\_info/users\\_guide/thesispubl.html](http://pfwww.kek.jp/users_info/users_guide/thesispubl.html)）に登録し、別刷りまたはPDFファイルをお送りください。成果を記者発表する場合には事前に広報担当者（宇佐美徳子:noriko.usami@kek.jp）にご連絡ください（参考：「プレスリリース等成果発表について」<http://imss.kek.jp/howtopress/index.html>）。

実験の成果およびそれにかかわる知的財産権の専有を希望される場合は、下記研究協力課共同利用支援室共同利用係にご相談下さい。本共同利用実験により得られた知的財産権の帰属については、大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構知的財産取扱規程に基づき、その都度協議することになります。

**過去に採択され、実施された課題が複数ある場合には、それらの課題によるPF出版データベースへの登録状況が審査に際して考慮されます。**その基準は以下の通りです。

申請課題の採択時から遡って2.5年前から8.5年前に採択された課題が2件以上ある場合について、

1. 採択課題数の1/3以上の課題について論文が登録されていない実験責任者に事情を照会する（yellow card 調査対象）。
2. 調査の回答に基づき、問題点の解析を行う。
3. 回答がない実験責任者の申請課題は不採択とする。
4. 論文登録の少ない実験責任者の申請については、実験責任者からの回答、該当期間の課題に関する論文登

録状況、学位論文等の登録状況を考慮し、PAC 分科会で評点の減点を提案し、PAC で決定する。減点は以下の基準で行う。

- \* 2/3 以上の課題について論文登録がない場合は、-1.0 を基準とする。1/3 を越える課題について論文登録がない場合は、-0.5 を基準とする。

### 【課題のカテゴリー】

課題のカテゴリーには、一般的な実験 (G 型)、初心者による実験や予備実験 (P 型)、緊急かつ重要な実験 (U 型)、特別型 (S1, S2 型)、新しく新設された T 型課題等があります。それぞれのカテゴリーの特徴、審査基準などの詳細は PF の Web ([http://pfwww.kek.jp/users\\_info/pac\\_application/category.html](http://pfwww.kek.jp/users_info/pac_application/category.html)) をご覧ください。

### 【審査について】

◆申請のあった実験課題は、当研究所に設置された放射光共同利用実験審査委員会 (PF-PAC) で審査し、運営会議の議を経て、所長が採否の決定をします。なお、緊急かつ重要な実験課題 (U 型) については、申請書受理後、直ちにレフェリーの意見を徴し、その意見を参考にして、その都度、採否を決定します。

◆申請書には一つの研究課題に関する研究内容・計画を記し、関連性の薄い複数の研究課題を列記しないでください。審査は申請書に記述された研究の内容について行ないますので申請書は具体的に記述して下さい。

◆すでに述べましたが、これまでに実験をされた方からの申請については、それらの課題に関する論文登録状況も審査の対象となります。PF 出版データベースおよび学位論文データベースへの登録を予め確認してください。登録状況が宜しくない場合は、課題審査に先立ち電子メールで事情説明を求めます。回答がない場合は、不採択となります。速やかに回答してください。

◆審査結果は、実験責任者および Contact Person in Japan (国外からの申請の場合) にお知らせします。

◆S2 型の審査は、書面審査の後、評定者 (5 人以上) 等を対象に口頭説明を行ないます。採択の後は、毎年 PF シンポジウムで進行状況を報告して頂き、PF-PAC で評価します。採択された U 型課題は PF シンポジウムで報告していただきます。

◆P 型 (予備実験・初心者実験) の申請に当たっては、実験ステーション担当者との事前打ち合わせが必須です。十分な時間的余裕をみた上で、実験ステーション担当者と技術的なことについて緊密に打ち合わせて下さい。また、初心者型の実験には経験者を加えることが出来ません。

◆T 型課題 (最長有効期間 3 年) は、大学院学生 (博士後期課程在学者もしくは博士後期課程進学予定の修士 2 年生) が申請することができます。この課題に関する研究は、大学院学生の所属大学側と PF 側とで共同で学生指導を行うこととなります。申請にあたっては、申請者、大学側指導教員と PF 側受け入れ担当教員との間の十分な事前打ち

合わせが必要です。申請を検討する場合は、早めに PF 側に相談して下さい。審査は書面審査後に評定者 (3 名) 等を対象に口頭説明を行います。採択の後は、毎年 PF シンポジウムで進行状況を報告して頂き、PF-PAC で評価して助言を行います。

◆本公募により提供された個人情報、課題審査および課題採択後に共同利用実験を円滑に実施するための連絡等の目的で利用いたします。また、採択課題については、本機構のホームページ及び刊行物に実験責任者氏名・所属及び実験課題名等を掲載することをご了承下さい。

### 【ビームタイム配分】

課題審査では学問上の価値、技術的な実行の可能性に重点を置いて申請書の評価を行い、最高 5 点で評点を付けます。このため、課題が採択されたことは必ずしもビームタイムを申請されたビームタイムの配分を約束するものではありません。ビームタイムの配分は、課題の評点を考慮して、運転期毎に行われますので、使用するビームラインの担当者と連絡をとってください。今回採択された G 型課題の評点分布は p.72 に掲載しています。

### 【その他】

◆実験を行うに当たり、放射線業務従事者として登録していただく必要があります。

◆実験を実施する時は、安全確保のため、放射線、化学薬品、有害物質等に関する当機構の諸規則その他の関係法令の規制を受けます。

◆国内の大学等からの利用に当たり、PF のルールに基づき旅費、滞在費のサポートを行います。また、宿舍等は空きのある範囲で利用可能です。

◆(課題の再申請) 採択されたけれども評点が低いためにビームタイムが配分されない課題について、より高い評価を得るために再申請を行うことができます。このような申請を提出する場合には申請書の中に再申請であることを明記して下さい。再申請が採択された場合には、いずれかの課題を取り下げさせていただきます。

不明な点は下記までお問い合わせ下さい。

#### 研究協力課共同利用係

Tel: 029-864-5126 Fax: 029-879-6137

Email: [kyodo1@mail.kek.jp](mailto:kyodo1@mail.kek.jp)

## 予 定 一 覧

### 2013 年

- 8 月 29 日～ 31 日 Light and Particle Beams in Materials Science (エポカルつくば)
- 9 月 8 日 KEK 一般公開
- 9 月 18 日～ 19 日 PF 研究会「極短周期アンジュレータと新しい高性能光源加速器の開発」(KEK)
- 10 月 21 日 PF 平成 25 年度第二期ユーザー運転開始
- 10 月 22 日 PF-AR 平成 25 年度第二期ユーザー運転開始
- 11 月 1 日 防災・防火訓練
- 12 月 20 日 PF 平成 25 年度第二期ユーザー運転終了
- 12 月 20 日 PF-AR 平成 25 年度第二期ユーザー運転終了
- 12 月 20 日 平成 26 年度前期フォトン・ファクトリー研究会公募締切

### 2014 年

- 1 月 11 日～ 13 日 第 27 回日本放射光学会年会・放射光科学合同シンポジウム (広島国際会議場)
- 3 月 18 日～ 19 日 第 2 回物構研サイエンスフェスタ (つくば国際会議場)

※最新情報は <http://pfwww.kek.jp/spice/getschtxt> をご覧下さい。

## 第 27 回日本放射光学会年会・ 放射光科学合同シンポジウム開催要項

1. 開催日 2014 年 1 月 11 日(土), 12 日(日), 13 日(月)

2. 場所 広島国際会議場 (広島市中区中島町 1 番 5 号)

3. 主催 日本放射光学会

共催 広島大学放射光科学研究センター, 大阪大学蛋白質研究所, 九州大学シンクロtron光利用研究センター, 高エネルギー加速器研究機構放射光科学研究施設, 高輝度光科学研究センター, 佐賀県立九州シンクロtron光研究センター, 佐賀大学シンクロtron光応用研究センター, 産業技術総合研究所計測フロンティア研究部門, 自然科学研究機構分子科学研究所極端紫外光研究施設, SPring-8 ユーザー協同体 (SPRUC), 東京大学物性研究所軌道放射物性研究施設, 東京大学放射光連携研究機構, 東京理科大学総合研究機構赤外自由電子レーザー研究センター, 東北大学特定領域横断研究組織「シンクロtron放射」, 名古屋大学シンクロtron光研究センター, 日本原子力研究開発機構, 日本大学電子線利用研究施設, 兵庫県立大学 New SUBARU, PF-ユーザアソシエーション (PF-UA), VUV・SX 高輝度光源利用者懇談会, UVSOR利用者懇談会, 理化学研究所放射光科学総合研究センター, 立命館大学SRセンター, 立命館大学卓上型放射光センター

4. 組織委員会 ([ ]は推薦団体, ( )は所属機関, ○は委員長)

井田隆[PF-UA (名大工)]、乾雅祝[プログラム委員長 (広大)]、奥田太一[VUV・SX 懇 (HiSOR)]、郭其新[佐賀大]、加藤政博[分子研]、神田一浩[兵庫県立大]、栗栖源嗣[阪大蛋白研]、小池正記[産総研]、小西啓之[原子力機構]、櫻井吉晴[JASRI]、佐々木 園[SPRUC (京都工繊大)]、瀬戸山寛之[SAGA-LS]、曾田一雄[UVSOR 懇 (名大)]、高桑雄二[東北大]、高嶋圭史[名大]、高原淳[九大]、唯美津木[学会会計幹事 (名大)]、田中隆次[理研放射光セ]、谷口雅樹[実行委員長 (広大)]、築山光一[東京理科大]、中島伸夫[HiSOR (広大)]、生天目博文[副実行委員長 (HiSOR)]、難波秀利[立命館大学SRセ]、長谷川大祐[立命卓上SR]、早川恭史[日大]、原田慈久[東大物性研]、平野馨一[KEK-PF]、深井周也[東大放射光連携]、○松田巖[学会行事幹事 (東大物性研)]、水木純一郎[学会会長 (関学)]

5. プログラム要綱

- ・ 12 日午後には総会、夕方に懇親会を開催予定です。
- ・ 11 日, 12 日, 13 日, は企画講演, 特別講演, オーラルセッション, ポスターセッション, 企業展示, 施設報告等を行う予定です。

6. 参加費

	11 月 30 日までに支払	12 月 1 日以降 (現地での支払いをお願いいたします。)
放射光学会員	6,000 円	7,000 円
共催団体会員・職員	8,000 円	9,000 円
非会員	10,000 円	11,000 円

学生会員	3,000 円	4,000 円
学生非会員	4,000 円	5,000 円
懇親会(一般)	6,000 円	7,000 円
懇親会(学生)	3,000 円	4,000 円

- ・ 発表申込時に参加登録を一緒に行っていただきます。その際、参加費および懇親会費の支払いの手続きも行ってください。事前の支払いは、クレジットカード払い、銀行振込が可能です。手続きの方法は、参加登録開始後放射光学会ホームページ上(<http://www.jssrr.jp>)でご確認ください。なお、参加をキャンセルされた場合の返金はいたしません。
- ・ 参加登録のみの場合も、同じく学会ホームページからできるだけ事前に行ってください。
- ・ 12月1日以降の参加登録、または、11月30日までに事前に支払手続きを行わない場合は、12月1日以降の参加費を現地受付でお支払いください。
- ・ 予稿集の事前送付は行いません。当日現地受付にてお渡しいたします。尚、12月上旬にホームページ上でアブストラクトを公開予定です。11月30日までに支払を済まされた方には、閲覧のためのパスワードを送付いたします。

## 7. 発表者資格

日本放射光学会年会・放射光科学合同シンポジウムの一般講演・ポスターの発表者(登壇者またはポスターの発表の場合は説明者)は、①主催団体の日本放射光学会会員、または、②共催団体の会員か職員に限ります。

- (1) 共催団体の会員または職員で日本放射光学会会員となっていない方は、放射光科学の発展に学会が果たしている役割をご理解いただき、日本放射光学会に入会していただくことを強く希望します。
- (2) 発表申込み時点で上記の資格を有しない方は、発表当日までに資格を取得する必要があります。特に、日本放射光学会への入会申込み手続きを至急行っていただくことを希望します。
- (3) 発表者が日本放射光学会の会員、または共催団体の会員・職員である場合は、共同発表者の中に上記の資格を満たさない方が含まれていても差し支えありません。

## 8. 発表申込について

- ・ 受付開始:**2013年9月2日(月)**
- ・ 申込締切:**2013年10月1日(火) 17:00 厳守**

申込方法:日本放射光学会ホームページ(<http://www.jssrr.jp>)を通して、発表申込、予稿集原稿提出、参加申込を行ってください。

- ・ ネットワークトラブル回避の為、締切日直前の申込みはなるべく避けて下さい。
- ・ 発表形式:オーラルとポスターがあります。希望される発表形式を選択して下さい。
- ・ 発表番号通知:2013年11月上旬に日本放射光学会ホームページ上で公開いたします。

## 9. 予稿集原稿について

- ・ PDFファイルで作成の上、発表申込の際に投稿してください。
- ・ 原稿形式 発表1件につき、予稿は1/4ページ(A6/縦置き)です。(A4縦置きの原稿4件を、50%に縮小してA4縦置きの頁に4件並べます。)
- ・ カラー印刷は受け付けませんので、ご了承下さい。
- ・ A4(縦長)に下記の要領で文字を打ち込み、原稿を作成して下さい。

- ①用紙の余白／上 2.5 cm, 下 1.5 cm, 左右 2.5 cm
- ②1 行目左端… 実験を行った施設名(12 ポイント)
- ③2 行目中央… 表題(18 ポイント)
- ④3 行目… 空ける
- ⑤4 行目中央… 著者名・所属(14ポイント)
- ⑥5 行目… 空ける
- ⑦6 行目… 本文(14 ポイント)

・ 文字化けを避けるために必ずフォントを埋め込んでファイルを作成して下さい。

## 10. プログラムの掲載

- ・ プログラムは、11 月上旬に日本放射光学会ホームページ上に掲載いたします。
- ・ 日本放射光学会誌「放射光」**第 26 巻 6 号(2013 年 11 月末発行予定)**に掲載いたします。

## 11. 企画講演の公募

前回と同様に、会員全体から企画講演を公募します。企画講演の形式や応募先・締切等は以下を参照ください。

- ・ 時間配分:1 つの企画講演を、趣旨説明を含めて全体で 180 分 (2 枠), 120 分 (1 枠), 90 分(1 枠) の計 4 枠が用意されています。
- ・ 企画の提案者には、講演の最初に趣旨説明と会期終了後の報告書の提出をお願いします。
- ・ 応募先:日本放射光学会事務局(jssrinfo@jssrr.jp)宛に電子メールで、①提案理由(200 字程度)、②講演者および時間配分を明記し、応募してください。
- ・ 応募締切:**2013 年 8 月 30 日(金) 17:00**

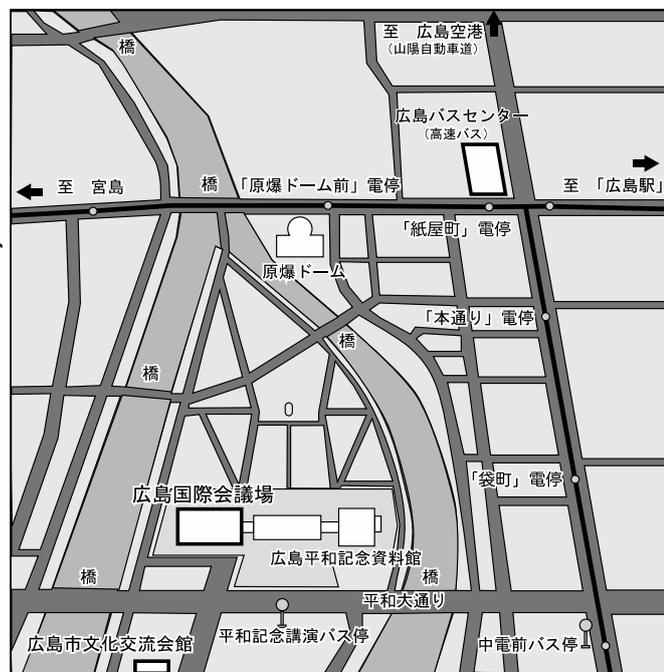
## 12. 会場へのアクセス、交通のご案内

### ○JR 広島駅から

- ・ 路線バス：南口バスのりば A-3 ホームより、広島バス 24 号線吉島営業所または吉島病院行「平和記念公園」下車すぐ。
- ・ 路面電車：広島港①行「袋町」下車、徒歩約 10 分、もしくは西広島②、江波⑥、宮島行「原爆ドーム前」下車、徒歩約 10 分
- ・ タクシー 所要時間約 15 分

### ○広島空港から

- ・ リムジンバス：空港ターミナルビル 1 階到着フロア 1 番ホームより、広島バスセンター行終点下車 (所要時間約 50 分)、徒歩約 10 分
- ・ 路線バス:「白市行」(所要時間約 15 分), JR「白市駅」から JR「広島駅」へ (所要時間約 4 5 分)
- ・ タクシー 所要時間約 50 分



# 運転スケジュール (Sep. ~ Dec. 2013)

E : ユーザー実験    B : ボーナスタイム  
 M : マシスタディ    T : 立ち上げ  
 MA : メンテナンス    HB : ハイブリッド運転

9月	PF	PF-AR	10月	PF	PF-AR	11月	PF	PF-AR	12月	PF	PF-AR
1(日)			1(火)			1(金)			1(日)		
2(月)			2(水)			2(土)			2(月)	E	E
3(火)			3(木)			3(日)	E	E	3(火)		
4(水)			4(金)			4(月)			4(水)	B	B
5(木)			5(土)			5(火)			5(木)	M	M
6(金)			6(日)			6(水)	B	B	6(金)		
7(土)			7(月)			7(木)	M	M	7(土)		
8(日)			8(火)	STOP	STOP	8(金)			8(日)	E	E
9(月)			9(水)			9(土)			9(月)		
10(火)			10(木)			10(日)			10(火)		
11(水)			11(金)			11(月)	HB		11(水)	B	B
12(木)			12(土)			12(火)			12(木)	M	
13(金)			13(日)			13(水)			13(金)		
14(土)			14(月)			14(木)	MA/M	E	14(土)		
15(日)	STOP	STOP	15(火)			15(金)			15(日)	E	E
16(月)			16(水)			16(土)			16(月)		
17(火)			17(木)			17(日)	E		17(火)		
18(水)			18(金)	T/M		18(月)			18(水)	B	B
19(木)			19(土)			19(火)			19(木)	E	E
20(金)			20(日)		T/M	20(水)	B	B	20(金)		
21(土)			21(月)			21(木)	M	MA/M	21(土)		
22(日)			22(火)	E	E	22(金)			22(日)		
23(月)			23(水)	B	B	23(土)			23(月)		
24(火)			24(木)	M		24(日)	E	E	24(火)		
25(水)			25(金)			25(月)			25(水)		
26(木)			26(土)			26(火)			26(木)	STOP	STOP
27(金)			27(日)	E	E	27(水)		B	27(金)		
28(土)			28(月)			28(木)	B		28(土)		
29(日)			29(火)			29(金)		E	29(日)		
30(月)			30(水)		B	30(土)	E	E	30(月)		
			31(木)	B	E				31(火)		

スケジュールは変更されることがありますので、最新情報はPFホームページ(<http://pfwww.kek.jp/indexj.html>)の「PFの運転状況／長期スケジュール」(<http://pfwww.kek.jp/unten/titlej.html>)をご覧ください。